



広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

2009. 6. 15
第 50 号

今年度の聖句

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、
見えないものは永遠に存続するからです。 (コリントの信徒への手紙二 4 章 18 節)

同窓会の役割とは

支部長 坂下 恵 (杉田) 文英 1

今年度から東京支部長の役を担うことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

他支部に比べれば人数が多く、活発に活動もしている東京支部ですが、悩みはいろいろあります。その第一は、50歳代以下の方々の参加が少ないことです。これは突き詰めれば近い将来、同窓会活動が成り立たなくなることを意味しています。

若い方々のライフスタイルにも合った同窓会活動とはどのようなものを模索していきたいと思いますので、どうか生の声をお聞かせ下さい。

ところで、同窓会の役割とは何でしょうか？同窓会の集まりで懐かしい友人に会って話に花を咲かすのは楽しい事ですが、それだけで終わってしまっただけでは発展がありません。共学や男子校では同窓会活動は概して盛んなようです。社会の中での同窓生としての繋がり、何かと有利に働くことが多いと思われます。女性は家庭に入ってしまうとそのようなものはあまり必要が無いように思いがちですが、本当にそうなのでしょうか？

黒瀬真一郎院長は、「広島女学院とはどんな学校ですか？」という質問に、「卒業生を見て下さい。」とおっしゃってくださっているそうです。確かに本誌でもご紹介していますが、同窓生の中には様々な部門で活躍なさっている方やいろいろな活動を地道

に継続されている方がたくさんいらっしゃいます。卒業後、ご自分が積んだ経験がどなたかの役に立ったり、有り難い情報をいただいたりというようなことが、もっと年代を超えて行われても良いのではないのでしょうか？同窓生ならではの安心感や親近感も助けになるはずです。

去る4月24日に開かれた広島での同窓会全国代表者会議で、東京支部から「同窓会のホームページをもっと充実させてはどうか」という提案をさせていただきました。現在は各支部やブロックに分かれて活動していますが、交通の関係や家庭的な事情で活動になかなか参加できない全国のそして海外在住の同窓生も、ホームページでもっとたくさんの有用な情報を共有することができれば、同窓会として果たせる役割がぐんと広がるはずです。

幸いなことに、同窓会本部ではこの提案を受け入れ、早速動き始めてくださっています。

世の中の変化が速くなっている昨今、同窓会活動も時代の流れに即して変えていきましょう。そして同窓会が何かをしてくれるのを待つばかりでなく、積極的に活用しましょう。

「東京支部ニュース」も今回で第50号となりました。年三回(2月、6月、10月)の発行です。情報の基地として奮ってご利用ください。

報告 同窓会 全国代表者会議

去る 4 月 24 日、全国代表者会議が各ブロック代表 13 名と本部幹事 23 名の出席で広島女学院高校にて開かれ、関東ブロックからは、東京支部の坂下（支部長）と鈴木（副支部長）が出席しました。礼拝で小田部三恵子先生から「無限の希望」と題するメッセージをいただいた後、議事に入り、昨年度の報告と新年度の事業計画及び予算案が承認されました。

同窓会から寄付したゲーンズチャペルのパイプオルガンの設置は諸事情で遅れて今年末になるとのこと、また、広島女学院維持会に寄付を少しずつでもお願いしたいとお話もありました。

引き続き、各ブロック、支部の活動報告がなされ、本部から、支部活動で困っていること、特に予算面で問題は無いかなどの問いかけがありましたが、各支部ともさほど切実な問題はなく、できる範囲で工夫して活動している状況が報告されました。会議終了後には、高校校地内の原爆死没者慰霊碑



前で礼拝を行いました。

中高の校舎も次々と改築が進んでおり、代表者会議に今回の高校の会議室を使うのも今年で最後になるだろうとお話でした。（坂下 記）

2009 年 ホームカミングデー

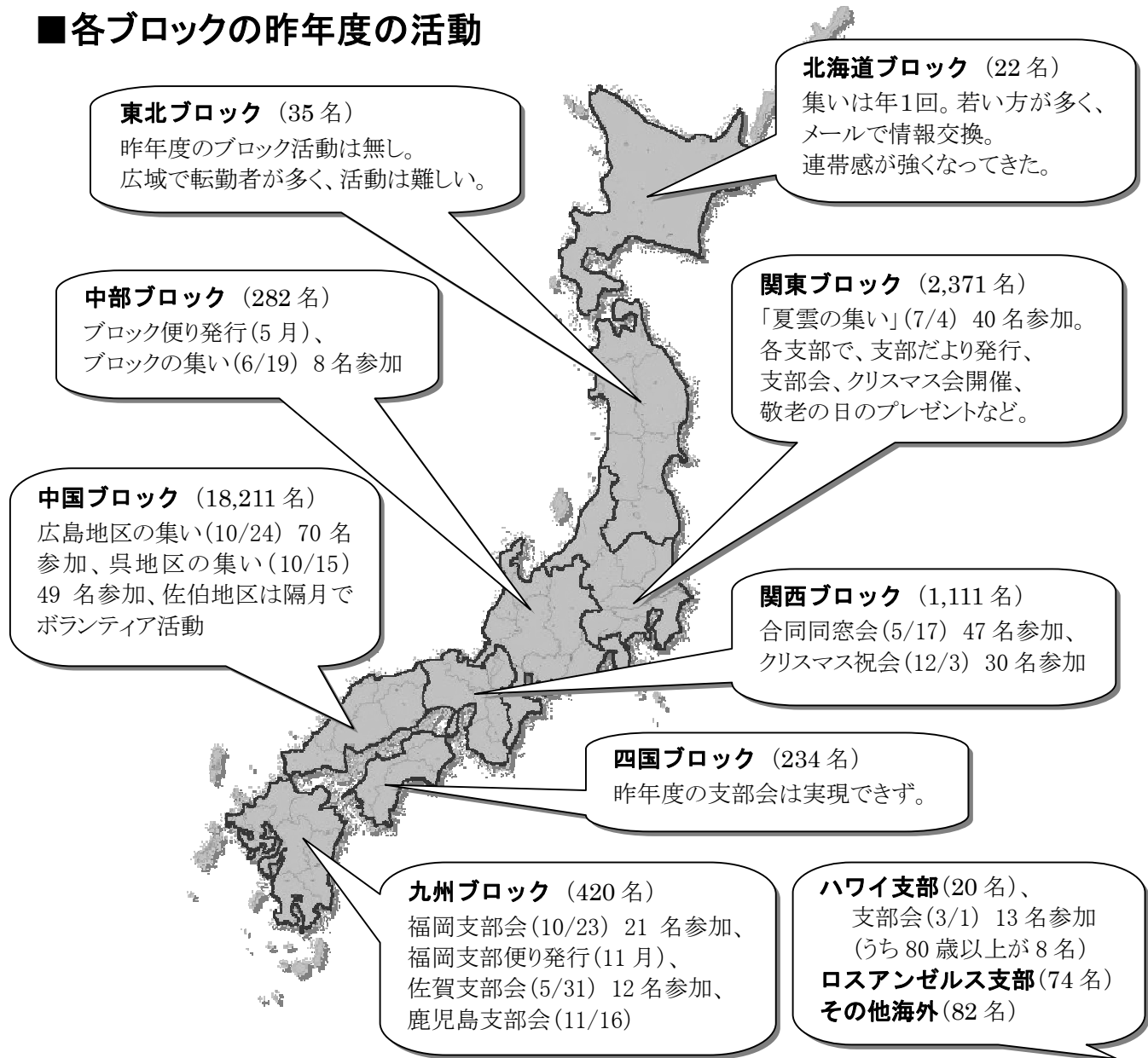
テーマ「つなげていこう平和の祈り」



翌 4 月 25 日には “2009 年ホームカミングデー” が、リーガロイヤルホテル広島に約 300 名の同窓生の参加を得て、盛大に行われました。

礼拝の後、土屋時子さん（高校 19・文日 1）構成・演出の朗読劇「夏雲は忘れない」、北垣内秀響さん（高校 26）の箏曲「琉歌」の演奏、そして、藤川浩子さん（高校 31）デザインによる現在の制服の紹介が行われました。お食事をいただきつつ歓談し、最後にクワイヤアイリスによる同窓生の歌「どんなに時が流れても」に続き、讃美歌と校歌を全員で歌って、名残を惜しみつつ解散しました。今回出席して、「同窓に守られている」、「先輩、後輩とつながっている」という思いを新たにしました。歴史ある女学院で学んだことに感謝です。久しぶりの広島では、新球場が出来、新銘菓「生もみじ」も発売されており、新しい動きが新鮮に感じられました。（鈴木 記）

■各ブロックの昨年度の活動



*** 還暦同期会 ***

(文英 1 回、文日 1 回、短大 18 回、高校 19 回)

4 月 25 日のホームカミングデー終了後、満 60 歳の同期生 44 名が、リーガロイヤルの最上階“リーガトップ”で二次会を持ち、旧交を深めました。



山本知子(秦)先生の思い出

川越 厚 (クリニック川越・院長)



秦先生（僕にはこの呼称が一番しっくりするので、ご了承いただきたい）の夫である山本學さんが、「女学院の教え子のために」と言って選んだ弔いの場所が、日本キリスト教団松沢教会であった。秋半ばと言うのに残暑が特別厳しい、2007年10月6日土曜日、午後1時半のことである。会堂の玄関に続く石段をゆっくり登っていくと、入り口の手前に立って弔問客に挨拶をしている學さんの姿があった。想像していたよりもお元気な様子なので、とりあえず安堵した。ところが彼は僕を見つけると挨拶もそこそこに、じっと僕の目を心配そうに見つめながら、「先生どうしたのですか。正気がまるでない」と、真顔でおっしゃった。山本學と言えば、日本を代表する役者さん。その彼が真剣にそういうのだから迫力がある。ホスピス医師として多くの方の死に関わってきたが、今回のように看取った患者さんが亡くなった後で、これほどひどく消耗したことはなかった。學さんが言うように、自分は生気がなく、本当に死ぬような形相をしていたのかもしれない。

広島女学院短大の教師をしていた母に連れられて、物心つく頃から僕は女学院で開かれる催し物にしばしば参加していた。当時の女学院は、今程

規模が大きくなり、学生、教職員とその家族をも含めた家族的な交わり、雰囲気大切にしていた。秦先生に初めてお会いしたのは、教職員の親睦を目的とした家族クリスマス会の席だったと思う。アメリカから新進気鋭の、若くて美しく、しかも才気溢れる女性教師が帰ってきたことを両親が話していたのを聞き、僕も子供なりにどんな方かと興味を持っていた。残念ながら、このときの記憶は定かでない。

先生が僕の記憶の中にはっきりとした形で登場するのは、1956年10月、広島女学院の70周年記念式典のときのことである。女学院創立当初のことを紹介した劇の中に、先生は演出担当、僕は子役で参加していた。何幕目かは定かでないが、幕が上がると子役の女の子と僕とが、地面に絵を描きながら遊んでいる。ゲーンズ先生役の米国人宣教師がそこを通り過ぎるのであるが、そのとき女の子が「わーい、わーい。外国人だ、外国人だ」と囃すのである。すると僕が「違うよ、あれは外国人じゃないよ。ゲーンズ先生だよ」と言って、女の子を諭す。そこで幕が下りるといふ、他愛ないストーリーであった。客席から大きな拍手と笑いが起こったのは言うまでもない。先生から、地面に丸い円を描くときに、「もっと大きく描きなさい」と注意されたことを今でも鮮明に覚えている。

その後、秦先生とは音楽を通して特別親しい交わりを持たせていただいた。昭和36、7年頃のことだと思うが、広島市内の教会のオルガニストを育てようということで、秦先生を講師に迎え、オルガン教室が開かれることになった。僕も受講生の一人として約二年間、秦先生からオルガンの手ほどきを受けた。オルガンを学ぶということの喜びよりも、あこがれの先生に毎週会えることの方がうれしかった。当時の女学院高校の校庭には、古いプレハブ作りの宣教師館があり、その一室にストップが十数個ついた立派なリードオルガンが

あった。そのオルガンで先生からご指導いただいたのである。僕が音楽を正式に習ったのはそれが最初で最後であるが、東大YMCAに入寮中は、かの森有正先生も弾いていらしたダブルスエルの歴史あるオルガンに触れる機会があり、クリスマス礼拝などでそれを奏でる恩恵に与った。

秦先生と音楽にまつわる思い出には、もう一つある。僕がオルガンを習っていた昭和37、8年頃、広島女学院の中・高の音楽部、それに大学のクワイヤが中心となり、市内の教会員、特に男性の有志が一緒になって、クリスマスに「メサイヤ」の演奏会を開くようになった。そこで先生が大きな役割を果たしていらしたのは当然であるが、先生には今思っても恥ずかしく、非常に申し訳ないことをした思い出がある。秦先生は、エリザベト音大教授の、光輝く（頭のことはありません）山上先生のピアノとともに、当時はまだ珍しかったヤマハの電子オルガンで伴奏をされたことがあった。僕が本番の開演前に、そのオルガンにいたずらをしたのである。僕のいたずらにすぐ気づいた先生が、休憩時間に黙々とストップを直されていた姿が、今でも冷や汗と共に思い浮かぶ。犯人が僕だということを先生はすぐわかったようで、僕の方をジロツと見られて、その後何もおっしゃらなかった。申し訳ないことをしたと思うと共に、怖いなど改めて思った次第である。

先生から見ると僕は本当の子どもで、しかも問題児であったはずだったが、なぜか先生は僕のことを「こうちゃん、こうちゃん」と言ってかわいがってくださった。僕が広島学院の生徒として自転車通学をしていたとき、高須にあった先生の家の前をいつも通っていた。あるとき先生からピアノをとのお誘いを受け、充分考えないままに二つ返事をし、先生のお宅へおじゃましてソナチネから練習を始めることになった。今考えればもったいない話であるが、その個人レッスンは確か数ヶ月で終わったと思う。何せ学業のほうに忙しく、練習もしないまま先生のところへ伺ったので、先生もあきれていらしたのではないかと思う。高須にあった先生のお宅は、お姉様が嫁がれた水野さんの立派な邸宅の横にある離れで、僕の記憶に間

違いなければ、そこに先生はお母様と一緒に住んでいらした。立派なアップライトのピアノがあり、何よりも大変整理されたきれいなところであったことを今でも覚えている。後で知ったことであるが、先生は僕の母校でオルガンの奉仕をなさっていたとのことである。

その後、僕は上京して間もない頃だったと思うが、先生が山本學さんというすばらしい伴侶に巡り合われたことを聞き、大変喜んだ。というのはわが家でなにかと秦先生のことが話題になり、どうしてあんなきれいな方が独身が続けるのだろうか、いつも首をかしげていたからである。しばらく先生とは直接的な縁は無かったが、また先生とお会いできたのは、僕が医者になってかなり経った今から20年近く前のことである。それは學さんのお母様ががんで亡くなったとき、僕が主治医として関わったからである。何年かぶりに先生にお会いして、先生が変わっていらっやらないことに驚いた。

先生の病気のことは、學さんの了解を得ることができれば、あらためて報告したいと思っている。

<プロフィール>

1947年 山口県山口市生まれ。

1966年 私立広島学院高校卒業。

1973年 東京大学医学部卒業。

茨城県立中央病院産婦人科医長、東京大学講師、白十字診療所在宅ホスピス部長を経て、1994年より6年間、賛育会病院長を務め、退職。

2000年6月、自らのクリニックを開業すると同時に、在宅ケア支援グループ・パリアンを設立。

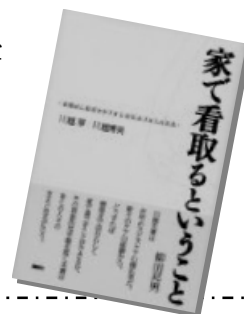
趣味はクラシック音楽鑑賞、旅行、将棋、釣、スポーツ（野球・テニス・卓球）。

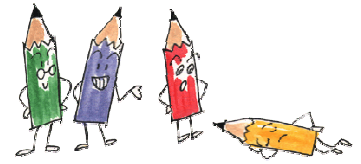
著書は「家で死にたい - 家族と看とったガン患者の記録」

（保健同人社）、

「家で看取るといふこと」

（講談社）など。





転機となる出会い

飯沢早苗 (大森・高23)

私は、現在、「ブライダルブーケをメモリアル商品にする」という仕事をさせて頂いております。まだまだご存じではない方が多いことと思いますので、少し説明をさせていただきます。皆様、結婚式に好きなお花や、思い出のお花をブーケにしてお持ちになります。式場も決まり、ドレスも決め、最後におもてなしの気持ちも込めてお花選びをされて、ブーケの花もご自身の気持ちにあった花を選ばれ、挙式当日、打ち合わせどおりのブーケを手にするわけです。

花とは不思議な力をもったものとお感じになられたことはありませんか？何千本とある花の中でその日ブーケに選ばれた花は、水から離れても最後の力を振り絞って一番綺麗に咲き誇り、二人を力の限り祝ってくれます。健気にも自分の役目を知っているかのように。花はその命が短いからこそ綺麗という考え方もあると思いますが、もしその花を残しておくことができたなら？というところから、私が今携わっている仕事が生まれました。当日の役目を終えたブーケを押し花にしたり、またはドライフラワー加工をして大切な花をアフターブーケに作り替え、

その後何年も共に時を刻んでくれるものとしてお手元に置いて頂けるよう加工製造しています。

人生には転機となる出会いがあるといいますが、まさにこの



仕事を自分の一生の仕事と覚悟したなかにも、素敵な出会いがあったのです。それは、今どうしていらっしゃるのかわからなくて申し訳ないのですが、広島女学院高校の先輩で15年くらい前に「レタスクラブ」という雑誌の編集長でいらした佐々木和子さんとの偶然なる出会いでした。本でご紹介をいただいたおかげで全国から、お問い合わせ、オーダー、かつ御礼の電話、お手紙が届き、感激の毎日を送らせていただいたのです。家庭を守ることも、子育ても、いえそれ以前の学生時代だってすべてマーマーとしかいいようのない私でしたが、「頑張って！」と、目に見えない何かに後押しをされている応援を感じずにはいられませんでした。

人様が喜んでくださるという実感が今も私を支えてくれています。出会いがもたらしてくれた人生最大のプレゼントでした。このような仕事に出会えたことに感謝しつつ、今度こそマーマーの自分を越えたく、楽しんでいる？毎日です。もし、お時間があるようでしたら、ホームページをのぞいてみてください。 <http://www.bloomade.com/>



モロッコの旅

白井京子（現・瀧口） 高23、文英5

飛行機がカサブランカ空港に降りた時は、深い霧が立ち込め、まるで映画「カサブランカ」の、ラストシーンのセットの中に立っているようだった。時刻は、深夜一時。それから車で3時間、マラケシュに着いたのは、明け方の5時。夜明け前の真つ暗な中でアラブ独特の三角フードの着物、ジュラバを着てひげを蓄えたホテルの従業員が、じっと暗がり立って待っていてくれた。

世界遺産であるマラケシュの旧市内の古いお屋敷を改装してリヤドという邸宅ホテルにするのが流行っていて、その一つに泊まる。オーナーはイタリヤ人とモロッコ人の男性デザイナー二人。ちよつとあやしい！しかし、こういう人たちは、とにかくきれい好きで、親切。おまけにデザイナーだから、調度品のセンスがいい。ちゃんとシャワーも温かいお湯が出るし、居心地のいい快適な空間。

モロッコ九泊のうち、中三日間、砂漠ツアーに出かけるに当たっては、服



装のアドバイスや、手荷物にリンゴ、ミカンを持って行けたの、ラクダに乗る時の注意など、まるで親戚のおじさん（おばさん？）のように、細かく親身に教えてくれる。

そして、出かけた砂漠ツアー、砂漠のオアシスに開けた町の、大きくて、古い（かつてはゴージャスであつただろう）ホテルに一泊。そこから、ラクダに揺られること一時間半、今回の旅の目的、あこがれのサハラ砂漠の赤い土の上のテントに一泊。そしてもう一泊は、赤い砂で作られた砂の城、カスバ。この三日間は、日本人若夫婦と一緒にのツアーで、忘れられない旅となった。そのツアーのプログ

ラムの中にタジンという土鍋を使ったモロッコ料理の教室があつて、簡単で美味しいということで、その鍋を買って帰ることにした。

そして砂漠ツアーを終え、またまた、マラケシュのプチホテルに戻る。そのオーナー二人に会えるのが懐かしく思えるほどに、二人には親切にしていた。毎夕七時には、フロントの横の小部屋のテーブルにワインや、ミントティー、ちよつとしたつまみや、サラダ、クッキーなど用意してくれて、泊り客は、今日、行ったところの話や、買ってきた土産物の話をして盛り上がる、民宿のような感じ。英語が母国語でない、フランス人、モロッコ人、イタリヤ人、デンマーク人、日本人が英語で話すわけだから、私つてこんなにも英会話ができたのー？と思うくらい皆の話の輪の中に入ることができた。そのプチホテルのオーナー二人は、日本が大好きらしく、日本がいかに清潔で美しく、日本人がどんなに親切かということのを他の外国人たちに教えてくれて鼻高々なひと時だった。

その宿から一緒に、大西洋に面した白とブルーに彩られた世界遺産の街「エッサウイラ」に日帰りツアーをしたフランス人親子とも仲良くなれたし、これまでの旅とはまた違う心通う楽しい旅だった。

モロッコから帰つて一カ月余り、重い思いをして抱えてきたタジンという無水鍋は、今、毎週末、我が家の食卓に上っている。

冬夕焼サハラ砂漠の砂赤き 白井薔薇

音とんと確かめ包丁始めかな //

久女忌や葦まとはりし池の底 //

冬帽を脱ぐや机に向ひたる //

投句をいただきました。

かがり火や手をかざしたり元日に 堀ノ内洋子

白井薔薇

俳句結社「童子」同人、日本伝統俳句協会会員
テレビ東京「サブちゃん」と歌仲間」に出演中

関東ブロック主催

2009 夏雲の集い

～ 原爆死没者追悼礼拝 ～

7月10日(金) 午後1時～3時

日本アライアンス教団 東京キリスト教会

追悼礼拝 説教: 東京キリスト教会 藤井哲夫 牧師

「剣を打ち直して鋤に」 イザヤ書2章4～5節

DVD上映 「夏雲－逝きしものへのレクイエム－」

藤井哲夫 牧師 プロフィール

1944年 東京都生まれ、1959年 広島教会にて洗礼を受ける
広島大学工学部機械科卒業、建設機械メーカーに34年勤務
2006年 日本アライアンス神学校卒業
現在、日本アライアンス教団 東京キリスト教会牧師
東京支部宗教委員 藤井幸子さん(財満・高14)のご主人

アクセス

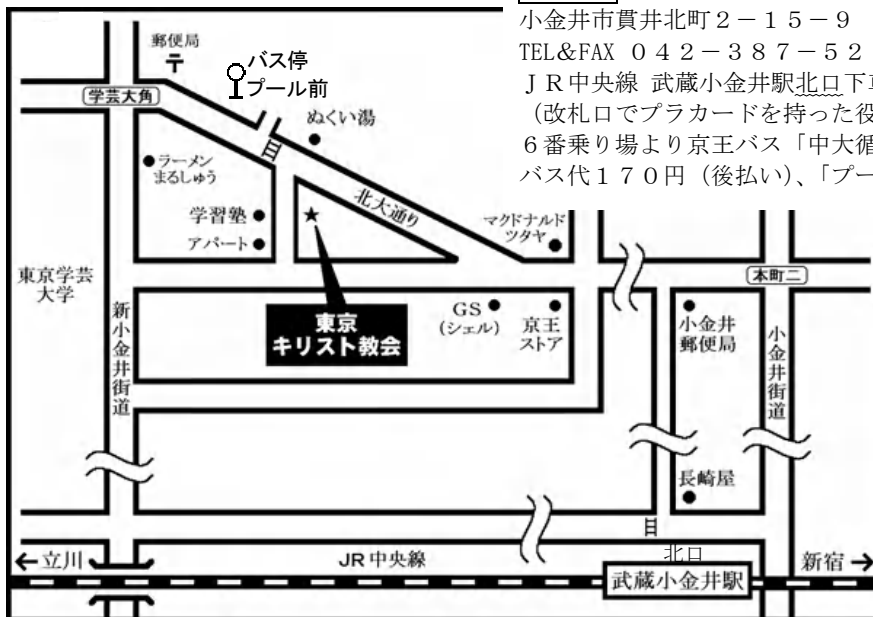
小金井市貫井北町2-15-9

TEL&FAX 042-387-5215

JR中央線 武蔵小金井駅北口下車

(改札口でプラカードを持った役員がお待ちします)

6番乗り場より京王バス「中大循環行き」(武31) 約5分
バス代170円(後払い)、「プール前」下車 徒歩2分



東京キリスト教会



❖ 支部年会費納入のお願い ❖

今年度の会費が未納の方には振替用紙を同封しています。支部活動は会費で成り立っています。

年会費 (2,000円) の振り込みをお願いいたします。

年会費の納入に「ゆうちょ銀行」の口座からの自動払込みを導入したいと考えています。
手数料が安く、毎年払い込む手間も省けます。ご希望の方は振替用紙の通信欄の「希望します」
に印を付けてお振り込み下さい。これまでのところ希望者は約70名ですが、実行に移すには
100名以上必要です。皆さまのご協力をお願いいたします。